

## 研究発表・実践報告内容

ポスター発表 会期中終日 解説付き 6月15日(火) 9:00~9:45

会場：仙台市天文台 オープンスペース

<施設運営>

### 三瓶自然館サヒメル 新しいプラネタリウムとその運営について

竹内 幹蔵(島根県立三瓶自然館)

デジタル機器が加わって新しくなった三瓶自然館のプラネタリウムとその機器を生かした運営についての取り組みを紹介する。

<施設運営>

### 釧路市子ども遊学館における学校連携の取り組み～道東科学教育支援ネットワーク～

多胡 孝一(釧路市子ども遊学館)

釧路市子ども遊学館では、研究開発機構[宇宙航空開発機構(JAXA)]や高等教育機関[北海道教育大学釧路校、釧路工業高等専門学校]と連携し、地元の教育現場[釧路・根室の小中学校教員]を支援する枠組み『道東科学教育支援ネットワーク(Do To ネット)』を作り、活動を始めた。

2008年11月から始めたその活動を紹介する。

### 世界天文年 2009"フォトモザイクポスター"完成しました 三島 和久(倉敷科学センター)

世界天文年 2009「めざせ 1000 万人！」に関連した企画として、全国多くの方々に 6000 枚以上の画像を提供していただき完成した「フォトモザイクポスター」。製作協力のお礼とともに、現物を披露させていただきます。

### 『かつしか宇宙塾ジュニア』について

小林 香奈(葛飾区郷土と天文の博物館)

葛飾区郷土と天文の博物館では、4年生向け講座『かつしか宇宙塾ジュニア』、5、6年生向け講座『かつしか宇宙塾』、英語を取り入ながら宇宙を学ぶ中学生対象の講座『かつしかスペースカレッジ』があり、4年生から継続して学習できる講座を開いている。この体制の成果と課題、そして、講座の1つ『かつしか宇宙塾ジュニア』の目標・内容・参加児童の感想などを紹介する。

口答発表 6月15日(火) 9:50~11:45

会場：仙台市天文台 加藤・小坂ホール

<会場1> 施設運営

**9:50 お仕事あとのプラネタリウム** **杉中 慎(福島市子どもの夢を育む施設こむこむ)**

福島市で毎月本格的な大人向けプラネタリウムが見られる場所として、福島市内で隠れた人気を誇っている「お仕事あとのプラネタリウム」。従来のプラネタリウムにとらわれず、常に新しい投影を試みながら、「ココロに届く投影」を目指し、日々奮闘している。昨年度は座席占有率75%を超えたこの取り組みを事例として紹介する。

**10:05 ゆりかご前から星になるまでプラネタリウム** **長谷川好世(白井市文化センター・プラネタリウム)**

機器更新の時期を迎えたが、財政難のこの時代、前途は多難である。「プラネタリウムは必要か」に対する答えのひとつが、「ゆりかご前から～」であった。白井市では「ゆりかご前」は、「マタニティコンサート+」を行っているが、今年度から新たに初めてプラネタリウムを体験する幼児のために「ひよこプラネタリウム」を実施した。生涯を通して、活用し、楽しむことができるプラネタリウムの実践を報告する。

**10:20 山梨県立科学館リニューアルオープン** **高橋真理子(山梨県立科学館)**

山梨県立科学館では、今年3月20日プラネタリウムをリニューアルし、全国初となったプレアデスシステムを導入した。リニューアルに際してのコンセプト、プレアデスシステムを活用した運営方法、その反響や今後の展望について発表する。

**10:35 明石市立天文科学館・展示室リニューアルとプラネタリウムオーバーホールについて**

**鈴木 康史(明石市立天文科学館)**

明石市立天文科学館は昨年11月末より約半年間休館し、展示室の更新を行った。キーワードは 子午線に関する展示の充実、子どもから大人まで楽しめる展示空間、変化する展示の3点。また、休館中には開館50年にわたり多くの方々に愛されているカールツァイス社製のプラネタリウムのオーバーホールも実施した。その概要について報告する。

-----  
**11:00 コミュニケーション技術の進化とその活かし方** **小林 道夫(カガクノトピラプロジェクト)**

インターネットを利用した最近のコミュニケーション技術の進化は正に日進月歩の勢いである。本発表ではTwitter、Ustreamなどの最新のコミュニケーションサービスを紹介しながら、施設と利用者のコミュニケーションについて皆さんと一緒に考えてみたい。

**11:15 プラネタリウム施設における観望会開催の可能性** **原田 泰典(個人)**

プラネタリウム施設における観望会イベントの開催について、星空公団が実践・協力した事例を紹介しながら今後の展開について提言する

**11:30 会場1 施設運営 全体を通しての質疑応答**

## <会場 2 >

### 9:50 新学習指導要領をふまえた学習投映～思考力・判断力・表現力を高める工夫

吉田 栄(盛岡市子ども科学館)

平成 23 年度より完全実施される新学習指導要領。その中で特に意を用いることとして、「基礎的・基本的事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をはぐくむ」ことが挙げられている。それを踏まえたプラネタリウム学習投映について紹介する。学校によるプラネ利用促進がねらいである。

### 10:05 プラネタリウム投影のための基礎研究としての星名伝承について 北尾 浩一(個人)

星の和名はプラネタリウム投影において長年にわたり広く用いられてきた。しかし、ともすると星の和名は、昔の懐かしいもの、過去のものとして捉えがちである。また、野尻抱影先生の『日本の星』によって既に集大成されたと思われがちである。本研究では、日本の星名伝承の研究の必要性を論じるとともに、2010 年においても記録することができる「今日性」について考えたい。

### 10:20 ゴッホが描いた星空の絵を解く 菊地 美江(財)つくば科学万博記念財団 つくばエキスポセンター)

星を主題として絵を描く画家は少ない。ゴッホは星を主題とし、星の位置をプラネタリウムで再現できるほど忠実に描き、星に意味を持たせた。また、書簡の中から星に関する記述を読み取り、ゴッホの星の絵や星の言葉を使い、プラネタリウムでゴッホの宇宙観を表現することができた。そうしたプラネタリウム番組を制作してわかったことを発表させて頂きたい。

### 10:35 プラネタリウムこども番組(オート番組)内での手遊び歌 石井 優子(神戸市立青少年科学館)

プラネタリウムを座って見るだけではなく、体を動かすことで幼児にも楽しく星に興味を持ってもらおうと思い、昨年度 1 年間放映したプラネタリウムこども番組(オート番組)「テンテンのさがしもの～はじめてのありがとう～」にて、オリジナル手遊び歌「じゅうにせいざのてあそびうた」を挿入した。制作時の工夫やスタッフから見たお客様の反応なども紹介する。

### 11:00 渋谷のツァイス投影機のこれから 齊藤 美和(個人)

渋谷駅前にあった五島プラネタリウムが閉館して 9 年がたった。その資料を受け継いだ施設「コスモプラネタリウム渋谷」が今秋、渋谷区文化総合センター大和田内にスタートする。新施設オープンの際にはそれらふたつの施設をつなぐシンボルとして五島プラネタリウムで 44 年間活躍したカールツァイス 型投影機を展示・保存してほしいと願う有志で実行委員会を立ち上げ、募金活動をしている。募金による旧投影機の展示・保存の実例として、投影機の現況、計画イメージの紹介をする。

### 11:15 最新天文学の普及をめざすWGについて

本間 隆幸(府中市郷土の森博物館)・伊東 昌市(国立天文台)

プラネタリウムのデジタル化によってプラネタリウムの可能性は大きく変化している。プラネタリウムの能力を生かすも殺すもプラネタリウム担当者の力量による。本WGは担当者のスキルを高めるためのワークショップを 5 回にわたって実施してきた。その報告と今年度の「宇宙からの惑星探査(仮)」を紹介する。

### 11:30 国立天文台 4D2U コンテンツの紹介 岩下 由美(国立天文台) 科学映像クリエイター養成コース終了作品の紹介 平井 明(国立天文台)

国立天文台天文シミュレーションプロジェクトの中に、サブプロジェクトとして、4次元デジタル宇宙(4D2U)プロジェクトがあり、最新の天文学をわかりやすく提供するためのコンテンツを開発している。「かくや」データや銀河衝突シミュレーションの可視化等 4D2U コンテンツを紹介する。

平成 21 年度科学映像クリエイター養成コース修了作品 6 作品を紹介する。